

## 1. はじめに

### 1-1. 目的

esySync は バックアップの更新の際に ファイルやフォルダーのコピーを一括して行うツールです。 これはフリーソフトウェアです。誰でも自由にお使いいただけます。

### 1-2. 作動環境

Windows VISTA、Windows 7 で作動を確認しています。

マニュアルの参照には Adobe Reader が必要です。

esySync.exe は .NET Framework 4 でビルドしています。

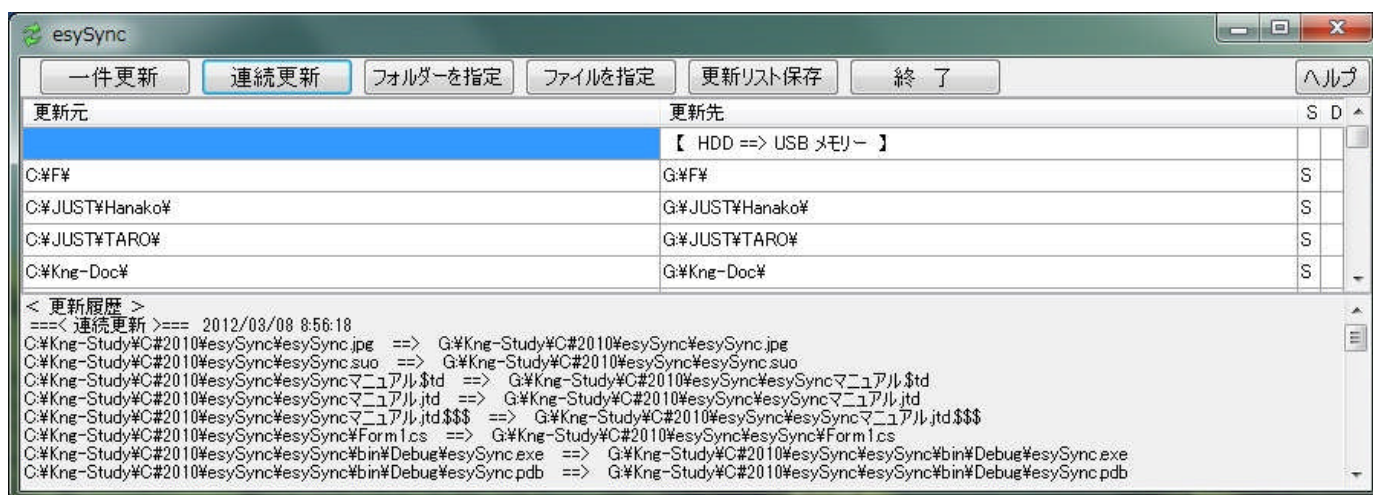
### 1-3. 準備・起動

フォルダを作成し esySync.exe と esySyncマニュアル.pdf を その中にコピーします。

esySync.exe を起動してソフトウェアをスタートします。 画面の端をドラッグするとサイズを調整できます。 更新リストは 何行でも記述できます。

## 2. 概要

更新リストを編集し、「一件更新」または「連続更新」ボタンにより実行します。



## 3. 更新リストの編集

### 3-1. 更新元欄

更新元欄にカーソルを置き、「フォルダを指定」または「ファイルを指定」ボタンを押して選択します。 またカーソルをクリックして直接記入することもできます。 フォルダ名の場合 末尾は “%” になります。

### 3-2. 更新先欄

更新先欄にカーソルを置き、「フォルダを指定」ボタンを押して選択します。 またカーソルをクリックして直接記入することもできます。

### 3-3. S 欄

S 欄にカーソルを置き クリックまたはエンターキーを押すと、“S”が表示または消えます。 サブフォルダも含めて更新する場合に “S”を指定します。

### 3-4. D 欄

D 欄にカーソルを置き クリックまたはエンターキーを押すと、“D”、“N”が表示または消えます。 更新の際の 消去方法を指定します。

### 3-5. その他の編集操作 (シフトキーを押しながら操作します)

- [Shift] + [Del] : カーソル行を一行削除します。
- [Shift] + [Ins] : カーソルの位置に空白行を一行挿入します。
- [Shift] + [PageUp] : カーソル行を一つ上へ移動します。
- [Shift] + [PageDown] : カーソル行を一つ下へ移動します。
- [Shift] + [Enter] : カーソル行の更新元と更新先を入れ替えます。
- [Shift] + [↓] : カーソル行のコピーを カーソル行の下に挿入します。
- [Shift] + [→] : カーソル行の更新先を更新元に習って記入します。  
この時 更新先のドライブ名は上の行に習います。
- ... etc

## 4. ボタン操作

### 4-1. 「一件更新」

更新リストのカーソル行一行のみについて 更新を実行します。

### 4-2. 「連続更新」

カーソル行から次の空白行の手前まで 連続して更新を実行します。 更新元欄が空白なら空白行です。 複数の連続更新を一つのリストに記載する場合 空白行を区切りに使います。

### 4-3. 「フォルダを指定」

更新リストの更新元欄または更新先欄に記入するダイアログボックスを表示します。

### 4-4. 「ファイルを指定」

更新リストの更新元欄に記入するダイアログボックスを表示します。

### 4-5. 「更新リスト保存」

表示中の更新リストおよび esySync ウィンドウの位置・サイズを保存します。  
次回ソフトウェアを起動すると これらが再現されます。

### 4-6. 「終了」

更新履歴をテキストファイル esySync.log に書込み、ソフトウェアを終了します。  
更新作動中にこのボタンを押した場合は、更新作動を中断します。

### 4-7. 「ヘルプ」

esySyncマニュアル.pfd を開きます。 参照には Adobe Reader が必要です。

## 5. 更新作動

### 5-1. 更新作動の対象

更新元にファイルを指定した場合は 指定のファイルのみが対象となります。  
ファイル名にはワイルドカードが使用できます。

[例] \*.txt : 拡張子が .txt である全てのファイルを対象にします。  
更新元にフォルダを指定した場合はそこに含まれる全てのファイルが対象となります。

S 欄に "S" が指定されている場合は サブフォルダも含めて以下の 「上書」「新規作成」「削除」の更新作動対象となります。

### 5-2. 上書

更新先が更新元より更新日時が古い場合は 上書きコピーされます。  
更新先と更新元の 更新日時が同じ場合は なにもしません。  
更新先が更新元より更新日時が新しい場合は ダイアログボックスが表示されます。  
この中で「逆更新する」を指定すると 更新先のファイルを更新元へ 上書します。

- 5-3. 新規作成  
更新元のフォルダやファイルが 更新先に存在しない場合は 新規に作成されます。
- 5-4. 削除  
更新元に存在しないフォルダやファイルが 更新先に存在する場合は場合は、D 欄の指定により 更新先のフォルダやファイルが削除されます。

D 欄 "D" : 削除します。  
D 欄 "N" : 削除しません。  
D 欄 " " : ダイアログボックスが表示されます。 この中で「逆更新する」を指定すると 更新先のフォルダやファイルを更新元へコピーします。

## 6. 関連ファイル

### 6-1. SyncList.txt

「更新リスト保存」ボタンを押すと 作動フォルダ内に SyncList.txt が作成されます。esySync.exe が作動を開始する際に 同じフォルダ内に SyncList.txt が存在すれば、それを読み込んで 更新リストや ウィンドウの位置・サイズに再現します。SyncList.txt はテキストファイルです、エディタで編集できます。

#### < SyncList.txt 説明 >

- ・冒頭の 4 行は esySync ウィンドウの表示位置・サイズです。
- ・行の初めが "/" の行は コメント行として 無視します。
- ・空文字列の行も 無視します。
- ・これら以外の行は 必ず 3 つの ";" を含みます。
- ・行頭から 1 つ目の ";" までが 更新元欄に読み込まれます。
- ・1 つ目の ";" から次の ";" までが 更新先欄に読み込まれます。
- ・2 つ目の ";" から次の ";" までが S 欄に読み込まれます。
- ・3 つ目の ";" から 行末までが D 欄に読み込まれます。
- ・S 欄、D 欄が無指定の場合は空文字列になります。(スペースは不可)

### 6-2. esySync.log

「終了」ボタンを押してソフトウェアを終了すると、esySync.exe の存在するフォルダ内に 更新履歴を記録したテキストファイル esySync.log が作成されます。

## 7. コマンドライン パラメータ

### 7-1. コマンドライン第一パラメータ

第一パラメータに有効なファイル名が指定されている場合は SyncList.txt に代えてこれを読み込んで作動開始します。複数の esySync を 使い分ける場合に使用します。

### 7-2. コマンドライン第二パラメータ

第二パラメータの文字列を 更新履歴の最初に表示します。  
無指定の場合は < 更新履歴 > と表示します。

## 8. 最後に

### 8-1. 免責

このソフトウェアを使用して発生した いかなる不都合にも制作者は責任を負いません。

### 8-2. 再配布

このソフトウェアを再配布する際には 制作者の了解を得てください。

### 8-3. お願い

バグ情報、このソフトウェアを使用した感想、希望などを 制作者までご連絡頂けるとありがたいと思います。

制作者 : 永井裕之  
Home page : <http://www.eonet.ne.jp/~kng/>

## 9. 履歴

V1.0	2012.8.5	新規作成
V1.1	2014.4.21	逆更新機能を追加、ウィンドウの位置・サイズ再現を追加